この人と吉野川

徳島県立
吉野川高等学校JRC・インターアクト部

江川の河畔に立つ 吉野川高校

吉野川の支流・江川の湧水源から下流へ約2kmの河畔に、徳島県立吉野川高等学校が立っています。阿波農業高校と鴨島商業高校が統合し、2012年4月に誕生した新しい高校です。

「日本三大河川シンポジウム2015」で、江川で環境美化活動を行っている4団体が発表を行いましたが、吉野川高校JRC・インターアクト部もそのひとつ。部長の井内一貴君（3年）のすばらしい発表、そして大人顔負けの堂々とした態度に、会場から大きな拍手が贈られました。

インターアクトクラブ（Interact Club）は、ロータリークラブにより提唱された、12歳から18歳までの青少年または高校生のための社会奉仕クラブです。吉野川高校JRC・インターアクト部は御所ロータリークラブの指導・助言のもと、吉野川市リバーサイドハーフマラソンはじめ地域のイベントにスタッフとして参加したり、公民館の運営委員を務めたりと、地域の中で大活躍しているのです。

江川は子どもの頃から親しんできた身近な場所

なかでも、「江川奉仕橋かもクラブ」と連携して取り組んできた江川での清掃美化活動は、旧鴨島商業高校時代から10年にわたります。吉野川高校北側一帯の河川敷を「江川ゆうねん」と名付け、癒しの公園として整備していこうというもので、清掃活動、芝生の植生や季節の花植えなどを年間通じて行っています。6月には、江川奉仕橋かもクラブとの共催で「ユリの花祭り」を開催。ユリの花が咲き誇る岸辺で、クイズ大会やゲームなどを仕切ったり、農業科・商業科を有する学校の特性を生かして「スクールカフェ」を開店し、お客様をもてなしました。

→「ユリの花まつり」のひとコマ。子ども達にジャンボシャボン玉作りを教えます
↑シンポジウムで発表をする井内君。感想も織り交ぜながら、はきはきとした口調で説明しました

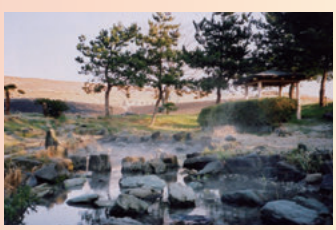
「さまざまな人との出会いや、地域の人とのふれあいがあり、ほかでは出来ない活動」と井内君。桑原麻友華さん（3年）も「スクールカフェでも子どもからお年寄りまで喜んでもらえ、うれしい。やりがいがあります」と笑顔で語ります。

水仙の球根3000球を植えました。花が咲くのが楽しみです

彼らにとって、江川は幼い頃から慣れ親しんだ場所。鴨島第一中学校時代から江川エコフレンドとともに清掃活動に参加しているメンバーもいます。彼らの手で美しくなった江川が、より彼らを輝かせます。

吉野川市リバーサイドハーフマラソンでの給水係も恒例の活動。すっかりベテランの域に

江川湧水源の不思議



環境省の全国名水百選にも選出されている江川の湧水源。こんこんと湧き出る美しい水は、夏は冷たく10度前後、冬は暖かく20度前後になるという「異常水温現象」でも有名です。吉野川の伏流水が長い年月をかけてたどりつくため、タイムラグが生まれるなど、原因については諸説あるのですが、今もって解明はされていません。冬なのに魚が元気に泳いでいるという不思議な光景は、一見の価値があります。県指定天然記念物。真冬の早朝には水面に湯気がたつことも